

本号のテーマ：「自己肯定感を高め合う」

学級討論会「どちらが幸せだと思いますか？」

先日、小学6年生の授業参観に出席しました。授業では学級討論会が行われ、討論のお題は、『野生の動物と、動物園の動物、どちらが幸せだと思いますか？』でした。



児童たちは「野生の動物派」と「動物園の動物派」に分かれ、どうしてそう思うか意見を言ったり、グループで話し合って相手側に質問や説明をして、最終的に5人の司会進行がどちらの意見に賛成するか、賛成の多いほうが勝利というルールでした。

いかに相手にわかりやすく説明して同意が得られるか、そう簡単にはできないことです。「伝える力」や「聞く力」を鍛え、今まさに大人社会でも求められているコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められるような、とても興味深い授業でした。

「野生の動物は危険を冒しながら獲物を獲りに行かなければならない」

「動物園の動物は何もしなくてもエサをもらえる」

「でも、もっと食べたいと思ってもそれ以上はもらえない」 など、

子どもらしい発言も飛び交いました。安全性や清潔さ、さらに子育てや病気に関する意見も出て、いろいろな観点から物事を見つめられる力が養われていることを感じました。

もちろん答えはどちらが正解というわけではなく、どちらもメリットとデメリットを併せ持っています。なかなか意見が言えない児童もグループの仲間に「これ言いなよ、そのあと私が追加して賛成意見言うから！」とフォローしてもらいながら一人ひとりが真剣に取り組んでいました。

5人の判定する児童たちは、それぞれに賛成する理由をきちんと述べ、具体的に「〇〇さんのこういう意見が心に響いた」と話す子もいました。6年生ともなれば、こんなに上手に自分の意見が言えるようになるのかと大いに感心しました。

結果は「動物園の動物」の賛成票が多かったのですが、勝者側も「ヤッター！」と喜んではいたものの、相手のプレゼンを聞いてお互いに相手の意見を理解し納得している様子が見られました。チャレンジ精神旺盛な人、慎重派な人、足の速さに自身がある人、食欲旺盛な人…。それぞれの特徴に合った意見だなあ、と妙に納得したりして、見ている親もとても楽しかったです。「この子どもたち一人ひとりが、将来自分に合った環境を見つけて、みんなが幸せになってほしいなあ…」と思いました。

「自己肯定感を高める」

文部科学省は子供たちの意識調査から「自己に対する肯定的な評価（自己肯定感）」が低いことを問題視した資料を公開しています。日本青少年研究所の高校生を対象にしたアンケートでも、「自分はダメな人間だと思うことがあるか」の質問に、「そう思う」と答えた割合が72%と他国（アメリカ・韓国・中国）に比べとても多かったとのことでした。

自己肯定感が低い子どもは、学力、意欲、達成感、規範意識なども低くなる傾向にあるそうです。「自分が好き」「人から愛されている」「自分には人並みな能力がある」など、自分の価値を認識できる「自己肯定感」を高めることによって、学習やスポーツなど意欲的に取り組むことができるようになります。また、自分を好きになれば、周りの人や環境に感謝できるようになっていくでしょう。

自己肯定感を高めるのは、小さな成功を積み重ねていくこと（得意なことを伸ばしていく）が大切です。人はみんな長所も短所もあります。まずはありのままの自分を受け入れて、そこから長所を伸ばし短所を克服していく努力をする。人の目を気にしない、人とも比べない、人からの評価を気にしない。

一人ひとりの価値を大切にしていける教育や社会であってほしいと願ってやみません。

【参考文献等】

「日本の子供たちの自己肯定感が低い現状について」

（平成28年11月14日 教育再生実行会議専門調査会 配布資料）

「高校生の生活と意識に関する調査報告書」

（平成27年8月 独立行政法人国立青少年教育振興機構 発表）

「教育委員会の動きなど」

佐久市小学校合同音楽会

6月26日、コスモホールで行われた合同音楽会を鑑賞させていただきました。

音楽の先生だった荻原教育委員や各校の音楽の先生、担任の先生がどれだけ熱心にご指導されてきたかが分かるような、ホールに響き渡る歌声は本当に素敵でした。

6年生にもなると合唱の技術も高度で、2部合唱や3部合唱、声の強弱や顔の表情などに変化をつけて、歌に気持ちを乗せて届けてくれたように感じました。

小学校最後の6年生の音楽会、本当に素晴らしかったです。